



《 例会 》 毎月第 2 水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2017~2018 年度主題

国際会長	「国境なき友情」
アジア地域会長	「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事 栗本治郎 (熱海)	「広げよう ワイズの仲間」
北東部部長 鈴木伊知郎 (宇都宮東)	「明日のために、いま土台を築こう」
会津クラブ会長 青山孝男	「新しい可能性を秘めて、共に歩もう！」

<No.269 会津通信>
2017 年 9 月 25 日発行

会 長	青山孝男
副会長	高橋眞美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

◇9月の聖句◇

悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

マタイ福音書 5 章 4 節

9 月例会プログラム

日時 ; 2017 年 9 月 26 日 (火) 19 : 00~
会場 ; 若松栄町教会

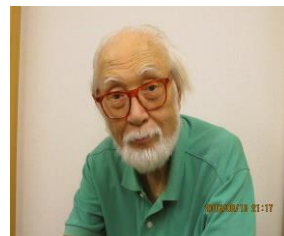
司会 ; 高橋 力さん

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 1. 開 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 青山孝男会長 |
| 4. 連 絡・報 告 | |
| 5. 聖 句 朗 読 | |
| 6. 食前感謝 | |
| 7. 会 食 | |
| 8. 協議 | |
| 9. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |
| - あかべこ | |
| 10. 閉 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |

戦争したがる戦争知らないひとたち

高橋 力

知らないでいいことがある。同時に忘れてはならないことがある。今は後者だ。憲法 9 条が生まれた当時、戦争の悲惨さの枷から解き放たれて、これだけは実現したいとの切望がここから生まれた。残念なことにこの喜びがつぎに覆い被さって来た朝鮮戦争などの軍需景気に踊らされてしまった。また更に米国の食料、物資だけではない、映画などによってイヤと言うほど見せつけられた豊かな暮らしへの羨望が焼け跡からの回復への足掻きに拍車をかけた。それほど日本は貧しかった。



デンマーク陸軍大将フリッツ・ホルムが (20 世紀初頭) 起草した「戦争絶滅受合法案」がある。「戦争行為の開始後又は宣戦布告の効力の生じたる後、十時間以内に次の処置をとるべきこと。即ち下の各項に該当する者を最下級の兵卒として召集し、出来るだけ早くこれを最前線に送り、敵の砲火の下に実戦に従わしむべし。一、国家の元首。但し君主たると大統領たるとを問わず、尤も男子たること。

<8 月例会出席状況>

在 籍 者 5 名 ゲスト 0 名
出 席 者 5 名
*例会出席率 100%
あ か べ こ 0 円
17-18 年度合計 0 円

☆ 強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う。 ☆

二、国家の元首の男性の親族にして十六歳に達せる者。三、総理大臣、及び各国务大臣、並びに次官。四、国民によって選出されたる立法部の男性の代議士。但し戦争に反対の投票を為したる者は之を除く。五、キリスト教又は他の寺院の僧正、管長、その他の高僧にして公然戦争に反対せざりし者。上記の有資格者は、戦争継続中、兵卒として召集されるべきものにして、本人の年齢、健康状態等を斟酌すべからず。但し健康状態に就いては召集後軍医官の検査を受けしむべし。以上に加えて、上記の有資格者の妻、娘、姉妹等は、戦争継続中、看護婦又は使役婦として召集し、最も砲火に接近したる野戦病院に勤務せしむべし。」

戦争を知らない、想像力乏しく市民にだけ自己責任を負わせる日本の政治家の固まっている内面をこじ開けてみたい。これは使ってみて「こころを覗く共謀罪」。これこそ一般市民が熱望することだ。ユーモアではない。「私が最高責任者（総理大臣）なのだから責任をとります」と中味のない啖呵を切る人が政治を牛耳っているこの国が情けない。その手下の共通のことばは「差し控えさせていただきます」。(次回は高橋力さん)



会津だより

第31回少年の主張会津若松市大会に共催

会津若松文化センターで8月10日に開かれた大会に共催し、審査員と小学生の部の講評更には、小中学生の優秀賞者に盾の授与を行った。小学生は20校、中学生は13校12時30分から日頃感じていることや多くの人に聞いてもらいたいこと、夢や希望、社会に対しての提言などを作文にまとめ堂々と発表した。審査基準は、論旨、論調、態度を採点した。



最優秀賞に輝いた小学生の作品を紹介する。

「利他の心」を持ち続けたい

「利他の心」それは「他人の幸福や利益を第一に考える心」つまり、人のために尽くすということです。私は、「利他の心」という言葉に、今年の4月、授業で初めて出会いました。私は、「利他の心」という言葉の意味を知り、あいづっこ宣言の一番初めに出てくる「人をいたわります」と、とても似ていると思いました。「人を大

切にして、いたわる心」これこそが「利他の心」だと、私は思います。私の学校では「NIE」(エヌアイイー)と、新聞を活用した学習に取り組んでいます。授業では、いろいろな記事を読んで自分の考えや感想などをまとめています。私は近頃、そのような学習で、中東で起きているイスラム国の戦争や北朝鮮のミサイル発射といった記事をよく目にします。どうして人は戦争をするのでしょうか。「自分の国を守るため?」「自分の信じている宗教のため?」理由はさまざまだと思います。でも、何の関係もない人達が、戦争に巻き込まれて、生きていく場所をなくしたり、大切なものや人を失ったり、そしてなにより、一つしかない大切な命がうばわれてしまうのも事実です。私は、このような記事を見るたびに、「こういうことをする人達は、自分さえ良ければいいと思っているの?それでもいいの?」と思います。そんなこと、いいはずがありません。人は、誰しも幸せになる権利があるからです。(以下次号)

会津の先人たち (会津若松市 HP より)

宗教教育に貢献した人

井深 梶之助 いぶか かじのすけ(1854~1935)

信教の自由

近代の日本は、西洋の文化を積極的に取り入れ、国家施策として産業の近代化に取り組みました。しかしながら、羊頭狗肉(ようとうくにく)といわれるように、その精神的な文化の受容には消極的であり、明治32年(1899)にはキリスト教などの宗教教育の規制を行います。これに対し、明治学院総理の井深梶之助は、毅然として講義し、信教の自由を訴え、宗教教育を堅持しました。

梶之助は、日本のキリスト教会の指導者として国際的にも活躍し、大きな足跡を残しました。

日新館学頭井深宅右衛門(たくうえもん)

井深梶之助は、安政元年(1854)に城下本三之丁(現在の東栄町)に生まれました。父、宅右衛門は、藩校日新館で学頭を務める、会津藩きっての知識人でした。梶之助も14歳で日新館に入学しますが、間もなく戊辰(ぼしん)戦争が始まります。

白虎隊に編入されながら年齢不足で参加できず、父に従い新潟県小千谷(おぢや)市に出撃しています。帰城してからは藩主の小姓(こしょう)となり、籠城(ろうじょう)戦を戦いました。(以下次号)

◆ 今後の予定 ◆

- ◇10月例会 10月11日午後7時より
ゲストスピーチ「寺子屋方丈舎代表 江川氏」
- ◇ユニークダンス例会
10月25日 会場：アガッセ